

平成 30 年度市政懇談会 開催議事録

開催日時：平成 30 年 6 月 19 日（火）午後 7 時～午後 8 時半

場所：笠間市役所本所

出席者：4 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 権限移譲について
- 2 今後の市政について
- 3 空き家対策について
- 4 防災対策（自主防災組織）について
- 5 危険なブロック塀の注意喚起について
- 6 人間ドックの予算拡充について
- 7 企業誘致について
- 8 友部高校や笠間高校などの学生の就職支援について
- 9 市内の民泊施設数について
- 10 文書管理について
- 11 かさま歴史交流館井筒屋の反響について
- 12 宍戸城と笠間城の城跡について

1 権限移譲について

【意見等】

県から市町村へ権限移譲を図る事務に精力的に取り組まれているが、これは県からの依頼なのか、それとも笠間市から提案しているものなのか、権限移譲事務の流れについて伺いたい。

【回答】

大まかな流れとしては、国からの権限を県が受け、県の権限を市町村が受け、スピーディーに住民へサービスを提供していくというものです。今のところ県からメニューが示されて、市町村がそれを受けるという事例の方が多いです。権限を受け入れれば当然業務も増え、責任も伴います。今までは県の判断を住民の皆さんにお伝えすればよかったことを、市が判断しなければなりません。これから、県から移譲される予定があるのは、林地開発の分野です。そのために、林地開発の知識・ノウハウを持つ職員が必要になるので、4月から市の職員を県の林政課へ派遣し勉強をさせています。

2 今後の市政について

【意見】

茨城新聞等報道機関に笠間市の施策などの記事が多く掲載されているが、笠間市の今後の課題や、方針など教えてほしい。

【回答】

笠間市では色々な事業に先進的に取り組んでいます。今後も効果があるものについては、国の制度より先んじて条例などの制度を整え、住民へサービス提供を行っていく予定です。空家対策については、国の法律ができる前に、笠間市として条例をつくり、取り組みを進めてきた経緯があります。色々な制度をスタートさせて、きちんと成果を出していくことが住民サービスの向上につながるのではないかと考え、取り組みを行っています。今はまだ法律上難しいことですが、今後は外国人労働者の受け入れに取り組んでいきたいと思えます。市内の企業では、人材が確保できないという課題を抱えています。私としては、質のいい外国人労働者については、積極的に受け入れるべきだと思っています。しかし、市独自ではなかなか進められるものではありませんので、県が先頭に立ち、受け入れを進めていければと思います。

3 空家対策について

【意見】

使い物にならない空家の対策が必要なのではないか。不審火や倒壊、不法投棄の場所になるなど、近隣住民の不安もあるので対策をお願いしたい。

【回答】

空家は適正に管理されていて利活用できる空家と、できない空家、その中間のものそれぞれ分かれています。近所に迷惑をかけるような適正に管理されていない空家に関しては、市としても引き続き、持ち主に適正な管理をお願いしていきます。空家の取り壊しについては、4月から取り壊しの補助金額を増やすなど、制度の見直しも行いました。しかしながら、持ち主によっては、市からの要望を聞き入れてもらえず、放置されている空家があるのも事実です。そのような空家についても根気強く説得していく必要があると思えます。

4 防災対策（自主防災組織）について

【意見】

地域で防災の組織作りを行って頂きたい。

【回答】

笠間市の自主防災組織は、行政区単位などで構成されていて、災害が起きた際にとても機能的だと思います。しかしその分、組織率が約 61%と、若干低い割合です。先日の大阪での地震で皆さんの危機意識・防災意識が高まっていますので、これから自主防災組織がない地区には設置のお願いをしていくつもりです。

5 危険なブロック塀の注意喚起について

【意見】

大阪府北部の地震でブロック塀が倒れ、下敷きになり亡くなった事件であるが、笠間市内でも危険な箇所があると思う。家の近所でも危険な箇所がある。近所の方には直接言いづらいので、市として注意喚起を行ってほしい。子どもや高齢者など、機敏に動けない方が被害にあっているのも、その方々の被害を防ぐためにも、市が率先して点検作業を行ってほしい。

【回答】

市でも本日点検を行ったところ、一箇所一定の高さ以上のブロック塀があり危険だと思われる学校が見つかりました。その点については、塀に支えをつくって、ある程度の揺れに備えるようにしたり、塀を一度撤去して別の塀を作り直すなど、早急に対策を行っていかうと思っています。支えのないブロック塀や大谷石は地震の時に大変危険なので、その点を住民の皆さんに注意喚起していきます。塀に関しても補助金制度をつくる必要がでてくる可能性もありますが、現在、住宅の耐震診断の補助金制度があまり活用されていない状況もあるので、補助金制度については難しいと感じています。いずれにせよ、一定の高さがあり、危険だと思われる箇所については、早急に実態を調査しようと思います。

6 人間ドックの予算拡充について

【意見】

高齢者が増えていることで医療費も年々増えている。現在、人間ドックは抽選となっているが、申請した方が全員受けられるようにした方が、医療費自体も減るのではないか。

【回答】

どこまで人間ドックの費用を補助していくかは、一つの課題だと思います。人間ドックの必要性は十分認識していますし、病気の早期発見・早期治療が医

療費の削減にもつながると思います。しかし、市がどこまで負担するのがよいかを考えていくと、際限がなくなる可能性もあるので、全体の予算の使い方も含めて考えていきます。今後、医療費の拡大が大きな課題になるので、人間ドックを含めて、健康づくりについて、市として力を入れていこうと思っています。

7 企業誘致について

【意見】

笠間市にモノタロウが誘致されたが、それに匹敵するような企業が誘致できないか。今後の見通しなどがあれば教えてほしい。

【回答】

旧畜産試験場跡地に関しては企業進出の問い合わせはほとんどありませんが、友部ジャンクション付近の茨城中央工業団地笠間地区については、土地の値段が下がったことで、企業からの問い合わせも増えています。ただ、企業が一番心配するのは、従業員が本当に集まるのかという点です。笠間市としては、市内や水戸市など高校生の就職率等のデータを提供し、誘致を図っていますが、思うように人材が集まらないという現状があります。企業が進出してくるときに、労働力があるというアピールを県と協力しながら行っていく必要があると思います。また、優秀な外国人を採用し、日本人と変わらない待遇のもと働いてもらう環境づくりも大切だと考えています。

8 友部高校や笠間高校などの学生の就職支援について

【意見】

笠間市へ企業を誘致した後、友部高校や笠間高校などの学生を育てて、その企業に就職してもらうことができれば人材不足の対策にもなるのではないか。

【回答】

その通りだと思います。友部高校や笠間高校などの卒業後就職する予定の学生を、どうしたら地元に残していけるかというのは、学生時代からの取り組みが必要だと思います。小学生や中学生の頃から職場体験などを行って、小さい頃から目指すものを見つけることも大切だと思います。また、地元の企業などは魅力的な企業でも自社のホームページを作っておらず、積極的なPRができていない企業もあるので、市としてそのような企業を知ってもらう取り組みも行っています。

9 市内の民泊施設数について

【意見】

民泊が解禁となったが、笠間市では届け出は何軒あったのか。

【回答】

笠間市では今のところありません。(なお、後日確認したところ、6月15日時点で2軒ございました。)民泊を行ってもらいたいという思いもありますが、安易にはスタートしない方がいいと思います。外国と日本では、文化や習慣も異なっているので、その点をよく考えて受け入れを行う必要があると思います。

10 文書管理について

【意見】

最近話題になっている文書管理の問題について、笠間市はどのように管理をしているのか。

【回答】

笠間市には、文書ごとに保管年数などが定められた笠間市独自の文書管理規程があり、それに基づいて管理をしています。歴史的に保存すべき文書については、市立図書館に保管しています。(なお、後日確認したところ、現在は旧箱田小学校に市史編さん室が設置されましたので、そちらに移管しています。)

11 かさま歴史交流館井筒屋の反響について

【意見】

かさま歴史交流館井筒屋ではリニューアル後に笠間城に関する展示を行っているが、反響はどうか。

【回答】

かさま歴史交流館井筒屋では、日々の来場者数を集計していて、4月から約8000人以上の方が訪れています。また、笠間城は続日本100名城に指定されていて、スタンプラリーのスタンプを設置しているので、それを目的に来館する人もいるのだと思います。また、近年お城の人気が高まっていますし、この秋には井筒屋で明治150周年の企画展も行う予定なので、来館数は今後さらに増えていくと思います。

12 宍戸城と笠間城の城跡について

【意見】

宍戸城と笠間城の2つの城の対比を、笠間市の観光資源にできないか。2つの城跡を行き来できるよう、宍戸駅を起点にしたウォーキングコースや観光ルートを整備できたら観光客を呼び込めるのではないか。

【回答】

笠間城だけではなく宍戸城と連携し、笠間のお城巡りとして観光につなげるのは確かに面白いですね。整備にはお金もかかりますし、すぐに行うのは難しいかもしれませんが、地元の方々の宍戸城への強い思いもわかりましたので、今後どのように城跡を活用できるか検討してみます。